

研究所ニュース No.7 2

# りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388  
FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:http://www.f-jinken.com

真夏の日差しの中、

## 第13回筑前竹槍一揆ウォーク in 直方 2015.8.23(日) を行いました

2015年8月23日(日)は、台風接近間近の日だったが、真夏らしい天気になった。

公益社団法人福岡県人権研究所が主催し、直方郷土研究会の協賛、直方市、直方市教育委員会、福岡県人権・同和教育研究協議会、部落解放同盟直方市協議会、直方市観光物産振興協会の後援、直方歳時館の協力を得て、「第13回筑前竹槍一揆ウォーク in 直方」の開催ができた。参加者83名。

会場の「直方歳時館」は、近代の炭鉱開発に尽力した堀三太郎氏の住宅を直方市が寄贈を受けて生涯学習施設としたもので、直方の四季折々を演出する会館である。

午前10時。本研究所 森山沾一 理事長の主催者挨拶、協賛の直方郷土研究会 篠原義一会長のご挨拶で会が始まった。

日程説明の後、本研究所 石瀧豊美 理事(イシタキ人権学研究所所長)が「筑前竹



槍一揆」についてパネルや史資料を基に説明を行った。(写真左)

その後、筑前竹槍一揆(明治6年)の際の柱傷が残る「香原家」と長崎街道の直方城下の入り口となる「尾崎口」をフィールドワークした。



香原家は、文久二年の棟札(写真左)が残る旧家である。

直方歳時館に戻って、昼食。昼食時に昨年(2014.8.17)第12回を開催した福津市唐津街道畦町(あぜまち)

宿保存会の岩熊 事務局長が、筑前竹槍一揆ウォークの後、福津市本木地区で筑前竹槍一揆の際に「不和随行」として処罰された井上勝次は極刑になり、その追悼の集いを開催することができた、との報告があった。

午後は市内ウォークだ。レトロ地区、多賀神社、直方市石炭記念館を3グループに分けて行った。レトロ地区は、長崎街道を一筋東側の通りである。直方谷尾美術館をはじめとする大正・昭和の建物がしっかりと残っている場所だった。

多賀神社(写真下)は、直方城下の鎮守とされてきた神社ある。江戸時代から奉納されてきた「日若踊」は京都の葵祭になら



った御神幸とともに福岡県無形民俗文化財に指定されている。直方市石炭記念館は、

筑豊石炭鉱業組合直方会議所として建設された本館を中心に10の施設で構成されている。

印象に残ったのは救護訓練坑道。九州炭坑救護隊連盟直方救護練習所として実戦即応の救命器具を使用した救護隊員の訓練施設である。日本最大級の塊炭(写真下)もあった。



館長さんの軽妙な解説であつという間に時間が過ぎた。また山本作兵衛の炭鉱絵が展示されているのも興味をそそった。

報告

人権資料・展示  
全国ネットワーク  
第20回総会 in 京都

9月17日(木)～18日(金)、京都市佛教大学で「人権資料・展示全国ネットワーク」(人権ネット)第20回総会が開催されました。人権ネットは、差別撤廃と人権確立のための研究・教育・啓発を行うことを目的にした人権に関する博物館、資料館、人権センター、研究所等で結成されたネットワークです(1996年結成。現在32団体加盟。ニュース「リベらしおん」でも加盟団体の紹介を連載しています)。総会后、新規加盟団体の「大分市人権啓発情報センター」(愛称;ヒューレおおいた)の紹介がありました。その後、加盟団体の意見

その後歳時館に戻って、恒例の抽選会が行われた。景品は成金饅頭、キーホルダー、石炭、手ぬぐい等々、直方観光物産振興協会や郷土会の方々のご協力も得てまさに様々。和やかな雰囲気の中、本研究所 谷口研二事務長の言葉で会を締めくくった。

それぞれの場所での案内・説明は地元の直方郷土研究会、「とおれんじ」、「泰山木」の方々でした。きめ細かなご配慮、説明をいただき本当にありがとうございました。

参/加/者/の/感/想/か/ら/

- 日頃通るところにこんな歴史が合ったのかと思いました。
- 一揆に加え、その地域の歴史を学べて大変よかったです。
- 筑豊の歴史についてたくさん知らないことがあることを改めて自覚しました。
- 直方の町をゆっくり歩いたことが無かったので知らなかったところの話が聞けてよかったです。石炭記念館も一度行ってみたいと思っていたので今日行けてよかったです。
- 筑前竹槍一揆と部落問題についてもっと学びたいです。
- 改めて同和問題を考えるよい機会となりました。また作兵衛さんの原画を見ることができたことも。また最後に事務局の方が話された「偏見と思い込み」について、何気ない言葉ですが考えさせられました。玖珠郡二町(玖珠町・九重町)でも部落史研究会の中でフィールドワークを行ったり学習会を開催する中で郷土の歴史の掘り起こしも行っています。今回の研修を機会として、玖珠郡でも取り組みを進めたいと思います。

(会員 塚本 博和)

交換に続いて、下坂 守 さん(京都国立博物館名誉館員、(公財)世界人権問題研究センター嘱託研究員)による記念講演「中・近世の四条河原・あまべの風景 — 描かれた河原者のなりわい —」がありました。

閉会后京都市人権資料展示施設「ツラッティ千本」を見学しました。ここでは、地元千本地域の歴史や取り組み、さらには住民主体のまちづくりの様子などが展示されていました。展示をもとに地域の歴史を大切にするとともに開かれたまちづくりの紹介がされました。夜は、各地の情報交換会を行いました。2日目は、フィールドワークでした。私たちは、崇仁まちづくり協議会の山内政夫さんの案内で、明治期に被差別部落の人々によって設立され現在は移築され資料館になっている柳原銀行とその周辺を見学しました。そのモダンな建物に込められた人々の思いや願い、そして闘いがあったこと。近く为全国水平社ゆかりの跡などを見て回りました。この地を歩く事で近代の闘いの記憶に想いを馳せるとともに私たちも「差別のない人権社会の実現に向けて」何をなすべきかを改めて問い直すフィールドワークでした。全国の仲間と出会い、つながりができた総会でした。



旧柳原銀行前での集合写真

<今回は、人権ネットワーク加盟団体の紹介に代えて全国総会の様子を報告しました。次回からまた、各地の人権ネットの紹介をします。> (事務局 山口正子/峰 司郎)

会員の声

2回目のスリランカ訪問

スリランカの少女たちに組紐を伝えたい

第一回の訪問のとき、スリランカの少女たちと三ヶ月で三百本のストラップを作ることに出来上がったらまた行くことを約束しました。約束の三ヶ月が過ぎ、現地のサシさんから少女たちが三百本のストラップを作り、ま



<第一回組紐ワークショップの風景>  
最初は4人の少女からスタートしました。  
(2015年3月21日撮影)

た、そのうち出来の悪いものは作り直したとのメールが来て、二度目の訪問のスケジュールを調整することになりました。

二度目は初回の経験を生かして、ちゃんとした目標を持って出かけたと思います。

- ①約束の三百本の作品について、きちんと評価をし、品質向上の意識を高める。
- ②組紐に使う糸はシェルターの作業所内で出る、織物の屑糸を利用する。
- ③そのための糸さばきの方法を教える。
- ④入所している少女だけでなく、現地で指導できるスタッフに技術を伝える。
- ⑤初版のテキストに掲載したパターンのうち残り5パターンをマスターしてもらう。
- ⑥商品化し、販売ルートにのせるための市

場調査を行い、類似品やみやげ物の価格を調べる。

⑦上記目標を達成するため、ワークショップを午前、午後で行い、ワークショップに5に5日をあてる。

このような計画を立てて、日程を調整し、8月5日出発、8月14日帰国と決めました。出発前に現地から、ストラップ用のフックが欲しいと要請があり、手持ちの中から半製品約二千本を持って行くことにしました。このほかに、私の友人が試作してくれた組紐の応用作品をいくつか参考を持っていくことにしました。

午前8時半にアラガマのシェルターに到着。前回の寮母のフランセスさんが退職していたのは残念で、通訳をしてくれる方がいるのかも新たな心配となりました。

到着後すぐに少女たちの作品を見せてもらう。いくつか指摘する部分があるものの、習作としてはまずまずのきばえです。午後から、早速ワークショップを始めたが、日本を出発する前のメールで、くず糸6色を準備してもらおうように連絡しておいたのですが見当たりません。くず糸を使った足ふきマットを作るようになったので、今は残っていないというのです。人数も始めの打ち合わせと違っており、日本との違いをつくづく思い知るようになりました。

今回から、先生たち3人が加わってくれたので、基礎からおぼえてもらい、指導役になってもらうことにします。ただ、前回参加した少女たちのほうがずっと進んでいるので、バランスを取りながら進めていかなければなりません。嬉しい誤算は予定人員より多い少女たちが興味を持って、つぎつぎと人数が増えたことです。それに伴って、道具のディスクを作る材料が足りない羽目になりました。

二日目、三日目と日を追って参加する少女

たちの人数が増えていき、教える内容より道具と材料の段取りに追われるようになってきました。最初から参加している少女たちの進歩は早く、次々に新しいパターンを覚えたいとせがんできます。彼女たちの熱意が伝わって嬉しい悲鳴ではありました。

五日間のワークショップを通して、延べ五十人ほどの少女がワークショップに参加し、三人の先生たちと、少女たちの中からこの施設にとどまるであろうと思われるラリカという名前の少女にほかの少女たちにはまだ教えていない技術と、器具の取扱について特別メニューで伝えてフックその他の材料の管理を任せることにしました。

次回、半年後にまた訪問する約束をして、今回のワークショップを終了しました。この結果、ラリカと初回から参加している4名は基本パターン十種類をマスターし、今回初めて参加した少女たちは基本の2から3パターンを習得したことになります。今後、商品化するにあたって取り組まなければいけないことは品質管理です。

私たち日本人は総じて「良いもの」を求め、「まあまあ」を良しとしないのですが、「良いものとは何か」を教えることはとても難しいことです。また新たな課題を持って帰国しました。

2015年9月 (会員 光武 節)

**組紐づくりを体験してみませんか!!**

「北九州市ふれあいフェスタ2015」が、11月29日(日)11:00から、ウエル戸畑(戸畑区汐井町1-6)で開催されます。

福岡県人権研究所は、「外国人部会」が中心になって「スリランカ」のパネル展示や光武節さんの「組紐づくり」の実演と体験コーナーも予定しています。

多数の参加をお待ちしています。

**先生、最後まで徹底してやって下さいよ**

会員 高原鹿大

**部落史研究会に参加して**

私が被差別部落史(以下部落史という)を研究してみようと思った理由は三つある。

一つはもう半世紀近く部落問題にかかわっていながら、身近な古賀市の部落史については殆ど分っていないからである。

二つめは、隣保館の正面玄関に掲げられている大理石に彫りこまれた水平社宣言の文言である。

「過去半世紀間に種々なる方法と多くの人々によってなされた吾等のための運動が何等有難い効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によって毎に人間を冒瀆されていた罰であったのだ」というくだりである。私が部落問題にかかわったのは、1971年からである。この文言は私にお前はこれまで何をしてきたのだと厳しく迫ってくる。

三つめは、1975年、古賀市に部落差別が存在す

るという部落差別の現実をふまえて、はじめて中学校で部落問題学習をはじめたことである。いわゆる「寝た子を起こす」部落問題学習がスタートしたことである。1972年中学校の社会科の教科書に部落問題の記述が記載されたがこれには間に合わなかった。それから3年かけて条件整備をした。その取り組みの中で部落解放子ども会と保護者の学習会が活動し始めたので学習に踏み切った。最後の地区懇談会での保護者の声が今も耳に残っている。「先生最後まで徹底してやって下さいよ」半世紀たってこの言葉の意味がよく分かる。

しかし、その結果は大変厳しいものになった。部落の子どもを名ざししての差別事件をひき起こしてしまったのである。同和教育とか人権教育といいながら学校の教育の中身はほとんど変わっていなかったのである。子どもたちは正直にそのことを発言したのである。

今日に至っても教育内容の「二元化」(ダブルスタンダード)の問題として克服されていないのではなからうか。学級PTAの話し合い記録や部落外の子どもたちの感想文や教師の学習の反省文と自分のこどもに出自を話した部落の保護者た

ちの記録と学習後の解放子ども会の子どもの感想文を読み返してみるとくつきりと課題が見えてくる。

現在、当時の保護者たちと交流している。すでに孫が高校生や大学生になっている。そこで「聞き書き」の取り組みや身近な部落史の学習をすることにしたのである。

部落差別が存在する限り好むと好まないにかかわらず部落の保護者や子どもたちは親、子ども、孫と差別と闘って生きていかなければならない。

部落に生まれたことに誇りをもたなければほんとうには闘えないのではないか。

子どもたちのアイデンティティの形成にとって身近な部落史をきちんと学んでおくことが大切であると考えたのである。生業の農業一つとっても、「聞き書き」で明らかになった祖父母の小作農としての厳しい生活と、江戸期「仕居」(「しずえ」;部落外の村に入植すること)によって、生活基盤を広げ現在の部落の基礎を作ってきた先祖の苦闘がつながると考えたのである。

県内各地で身近な部落史の研究会が生まれ、それが授業に生かされ交流会がもてるようになれば幸いである。

第186回定例研究会 (2015年度第2回外国人部会)

# 「移住労働者(研修生・技能実習生)問題を考える」

(問題提起/岩本光弘さん) を開催しました

2015年9月27日(日) 14時～16時 於 黒崎コムシティ201会議室

2015年9月27日(日)黒崎駅前コムシティ201会議室にて、第186回定例研究会(2015年度第2回外国人部会)が開催され、28名の参加がありました。

「移住労働者(研修生・技能実習生)問題を考える」というテーマで、(移住労働者と共に生きるネットワーク・九州共同代表の岩本光弘さん/写真左)に、全国フォーラムの歴史、「移住労働者と連帯するネットワーク」の結成と活動と現状、九州ネットの結成と活動の変遷、実習生問題についての最近の課題と動きについて、お話していただきました。参加者からは次のような感想が寄せられました。

参/加/者/の/感/想/か/ら

- 身近な実態がよく判りました。
- 移住労働者問題の背景にある「産業ニーズと日本の人口構成」の構造問題のマクロ対策と、それが個人におよぼす影響。国の無策をなげいても、対策を持っていない。これをきっかけに、考えて行きたい。
- 技能実習生の実態がよくわかった。技能実習生の問題に対し、九州ネットが改善に向け、どのように対応したかはよくわかったが、制度改善に向け、どのように取り組んだかを詳しく説明してほしい。
- 詳しい情報を得て満足です。

- 初めて外国籍の方々の問題を知る事が出来ました。ありがとうございました。
- 福岡にも支援の組織があることをはじめて知った。
- 初めて聞く話が多く驚きました。いくつかの事例は新聞等で見たことがありますが、マスコミは民間人にも広く知らせるためにもっと取り上げることはできないのでしょうか？
- 外国人問題はとても難しいことだと思います。日本人のモラルの問題も根本の教育の問題だと思います。
- 移住労働者の知らない問題点を色々かかかって、勉強になりました。大変な問題が多い中、一生懸命、力を尽して力になっていらっしゃる方がいる事も知りました。
- 技能実習生についての知識不足が外国人労働者の人権をどれほど侵害しているのかを強く感じました。
- 移住労働者の労働条件と現状の一部を知ることができました。ありがとうございました。
- 結局、弱い立場の人(日本人・外国人を問わず)が危険だったり、低賃金だったりする。大変な仕事をせざるを得なくなる。今、外国人研修生をきちんと待遇したら、将来の国との関係に大きなプラスになるのでは。実際に支援を続けておられるネットワークの皆様の活動に、心から敬意を表します。自分たちのできることは何かと思います。

## お知らせ

- ◇第4回啓発部会  
10月18日(日)午後2時～  
田川地区人権センター(田川郡福智町)
- ◇第5回教育部会  
10月24日(土)午後2時～  
ヒューマンアルカディア(春日市)  
<初めての参加もお待ちしています!>  
(詳細はHPでご確認ください)

受 託 事 業 紹 介

# 福岡市「若者と考える、地域にねざす部落史セミナー」

(全5回)の企画・運営(2015.11～2016.1) 詳細は同封の案内をご覧ください

同和問題に関して学校教育で学校教育で学んだ機会はあるものの、体系的に学んだ経験ない方たちに「被差別部落の歴史を、勉強しませんか!」というのがこのセミナーの企画の趣旨です。講師は、福岡県立大学顧問の森山沾一(本研究所理事長)、イシタキ人権学研究所所長の石瀧豊美(本研究所理事)です。1～4回の講座には、コメンテーターも来ます。会場は、福岡市人権啓発情報センター研修室です。第1回は、11月13日(金)。オリエンテーションの後「部落史を学ぶことの意義」がテーマです。

\* \* \*

5回目は、2016年1月22日は「史実と授業・啓発の結合をめざして」と兼ねて「福岡の部落史をどう伝えていくか」「今後の展望-史実をどう活かすか」というテーマで行われます。

各回の講座の内容や申し込み等については同封の案内を参照してください。「おすすめポイント」にあるように福岡の部落史研究の第一人者の講師やコメンテーターが、みなさんの疑問に答えてくれます。

定員30名。締切は10月25日(日)です。

## 「ハートフルフェスタ福岡 2015」 2015.10.4(日)

「海外人権スタディーツアー～スリランカを中心として～」の展示をしました

10月4日(日)、福岡市役所西側「ふれあい広場」で、福岡市主催「ハートフルフェスタ福岡 2015」が開催されました。すばらしい秋空のもとステージでは、子どもたちの歌声や太鼓などが響きわたりました。

「交流ブース」には、30以上のテントが並びました。本研究所は、「海外人権スタディーツアー～スリランカを中心として～」という展示をしました(写真左)。



展示を見られた方たちの中には、「人権スタディーツアーどんな事を学んだのかなど

積極的に質問する姿も見られました。(写真右)。

また、「スリランカ」に何度も行ったことがある」という方が「なつかしい」と熱心にパネルを見られていました。



他の「展示ブース」では女性や子ども、しょうがい者など個別の人権課題についてのテントや、環境や平和の問題についての展示もあり、非常に参考になりました。

「1日中にいろいろな出会いがあり、無駄なことは一つもないとつくづく思いました。」

中心になって活躍された海外人権スタディーツアー部会長の松村良子さんのことばです。たくさんの方々のご協力ありがとうございました。(事務局/峰 司郎)

事／務／局／日／誌／か／ら (2015.8.20～2015.10.17 講師等敬称略)

8月

- 21 金 福岡県教材集検討委員会(県庁) 北九州市内企同推幹事会(北九州市)
- 22 土 第3回啓発部会(田川郡福智町)「人権啓発テキスト(ハンセン病)の検討」(報告; 加来康宣)
- 23 日 第13回筑前竹槍一揆ウォーク in 直方(直方市歳時館)
- 24 月 事務局会
- 25 火 台風のため閉局
- 27 木 第60回松本治一郎・井元麟之研究会
- 29 土 糸島市人権教育研究大会(糸島市/西尾副理事長登壇)
- 30 日 シンポジウム「人権博物館の国際発信ー水平社宣言を世界の記憶に」(奈良市/理事長)

9月

- 1 火 事務局会
- 2 水 公益法人定期提出書類提出
- 6 日 宗像地区「同和」教育研究集会(福津市)
- 8 火 事務局会
- 12 土 第3回部落史部会、史資料プロジェクト(古文書学習/古賀市)
- 14 月 事務局会
- 17 木 人権資料・展示全国ネットワーク第20回総会(京都市)
- 18 金 同上2日目 第61回松本治一郎・井元麟之研究会
- 21 月 敬老の日
- 22 火 国民の休日 第3回執行理事会(福岡市)
- 23 水 秋分の日
- 26 土 第5回教育部会(福岡市)「教科書記述と部落問題学習」(報告; 峰 司郎)
- 27 日 第186回定例研究会兼第2回外国人問題部会(北九州市)「移住労働者(研修生・技能実習生)問題を考える」(講師; 岩本光弘)
- 28 月 事務局会

住民意識調査等の受託事業に関する事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請や事業報告、公益法人関係事務、関係機関・団体等との連携・調整事務等については省略しています。

10月

- 4 日 ハートフルフェスタ福岡 2015(福岡市/展示「海外人権スタディーツアースリランカを中心にして」)
- 5 月 事務局会 編集委員会
- 9 金 第14回北九州市内企業内同和問題研修推進委員会フィールドワーク(福岡市)
- 10 土 第34回九州地区部落解放史研究集会総括会、第35回全九研打合会(熊本市)
- 第4回部落史部会、史資料プロジェクト(古文書学習/古賀市)
- 12 月 体育の日
- 17 金 第54回福岡県人権・同和教育研究大会(直方市/理事長登壇)

「啓発担当者のための人権講座」

詳細は、同封の案内参照

- (兼 第1回啓発担当者の集い、第187回定例研究会、第4回啓発部会)
- 日時 2015(平成27)年10月27日(火)9:30受付 開会10:00～16:30
- 場所 一般財団法人福岡県部落解放センター4階(福岡市千代1丁目29-12)
- 主催 公益社団法人福岡県人権研究所 協賛 部落解放同盟福岡県連合会
- 内容: 第一講 内田 博文さん(九州大学名誉教授、神戸学院大学法学部教授)
- 「差別を規制することの意味ー国際的な人権状況から」
- 第二講 友永 健三さん(部落解放・人権研究所名誉理事)
- 「同対審答申50年・部落地名総鑑発覚40年」
- 振り返りと交流「私たちの課題、これからの取り組み」(進行 谷口 研二)

受講料  
2000円  
(会員)  
1500円